



「未来予想図」

教頭 橋本 繁仁

私の好きな曲の一つに、DREAMS COME TRUE の「未来予想図Ⅱ」という曲があります。この曲を知っている方も多いと思いますが、最近、またよく耳にするようになりました。驚いたことに本校の高2の生徒が口ずさんでいたりするのですが、1990年代に流行った一組のカップルの恋愛模様を描いた曲です。この曲の中で私が特に好きなフレーズは、次のとおりです。

♪きっと何年たっても こうしてかわらぬ気持ちで
過ごしてゆけるのね あなたとだから
ずっと心に描く 未来予想図は
ほら 思ったとおりに かなえられてく

下線の部分は恋愛だけではなく、いろいろな場面に当てはまる気がします。この歌のように、何年か後、未来予想図通りの人生が送れるなら素敵だと思うのですが、中学校で勤務していた頃、社会科の授業中にそんな話をすると、生徒たちからは「遠い未来なんて分からへんわ。」という反応が大半でした。その場合は「10年後、20年後とか難しいことを考えずに、1年後でもいいよ。1年後なら予想もしやすいし、いろいろ思うことや感じることもあるよね。その積み重ねが大切だよ。」と諭していました。そして、卒業が近づく頃には、「先生が教えた過去（歴史）を踏まえ、これから（未来）をどう生きていくのか、どんな未来予想図を描くのか、それは君たち次第だよ。」と語って送り出していました。

その後、特別支援学校で勤務し、進路担当やコーディネーターをするようになってからはこの考え方が変わってきました。生徒たちは日々の学習やグループ実習（作業学習）、現場実習などの体験を通して、自分の強みや弱みを知り、次の活動や自分の将来への見通しをたてられるよう勉強に励んでいます。けれども18歳に満たない彼らだけの力ではその予想図を描き切るのは難しいのが現実です。

本校の生徒たちは、卒業後に「すぐに就労する」「訓練して就労する」「自分のペースで学ぶ、働く、生活する」など「社会に出て自立する」という進路を選択することになります。生徒ごとに合う進路先は様々です。生徒の意見や思いに寄り添った進路とは何なのか、学校は保護者の皆さんと連携しつつ、日頃の生活や学習を通して考え、本人にとってのよりよい進路につながるよう、生徒たちを指導・支援していかなければならないと考えています。学校・家庭・地域と色々な場面で体験を積み重ね、自己肯定感を高め自信を持ってもらえるよう、学校生活ではどのような力をつけるべきか、どのような支援があればできるのかを個別の指導計画やネットワークプランを用いながら目標を定めています。

現在は生徒たちの思いや悩みを聞き、保護者の皆さんと思いとを共有しながら、指導・支援を更新し継続していくことが、彼らの未来予想図に繋がるのではないかと考えつつ、日々生徒の姿を見守っています。